

令和5年度第2回社会福祉審議会専門分科会・地域福祉計画策定懇話会
議事録要旨

開催日時	令和5年8月23日（水）午後1時00分から午後3時00分まで
開催場所	総合庁舎1階 多目的ホール
出席者 （委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉専門分科会 新崎委員長、和泉委員、岩浅委員、江浦委員、香川委員、高橋委員、西岡委員、西島委員、原委員、吉邨委員 ・地域福祉計画策定懇話会 天野委員、荒井委員、石井委員、今別府委員、加藤委員、田中委員、地村委員、中里見委員、村井委員、山中委員 <p style="text-align: right;">以上20名</p>
事務局	<p>宮野福祉部長、大川地域福祉室長、長原地域福祉課長、一木高齢介護課長、白石生活支援課長、増井子ども家庭課長、竹林社会福祉協議会事務局次長、地域福祉課 田中総括主幹、牧元主査、天田係員</p> <p>障害施策推進課 小山総括主幹</p>
議題	<p>(1) 市民アンケート、事業所アンケートの結果について</p> <p>(2) 地域福祉計画、地域福祉活動計画策定のための地域懇談会について</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容
会 長	<p>○開会のことば</p> <p>前回5月に開催した時にも話をしたが、今回の計画は国が地域共生社会の実現を目指すということで、社会福祉の法律も大きく変わり、制度も色々な形で進められようとしている。そのような中で、今回5年に1回の計画策定としてアンケートを実施した。今回の主な議題は、そのアンケート結果について、皆さんから意見をいただくのが中心となる。今日の午前中にも成年後見利用促進協議会があったが、そのことも今回の計画に位置づけられているので、色々な角度から意見をお聞かせいただきたい。</p>
事 務 局	<p>審議事項（1）市民アンケート、事業所アンケートの結果について</p> <p>資料説明</p>
会 長	<p>今回、前回や前々回との比較については、今回の配布資料には出ていない。前回とどう違うのかといった指摘も含めて、意見や感想をお聞きしたい。</p>
委 員	<p>地域の近所づきあいや関係性づくりが希薄になってきているが、どうしようもないのかなという気はしている。ただ、そういった中で、これからを考えていかないといけない。情報入手についても、紙媒体より、徐々にインターネットやSNSの活用が進んでいる。情報を上手く操作しづらい方もいるので、それらを含めて両方で情報提供をしていく必要があると思う。</p> <p>また、14ページの地域行事への参加とかお手伝い等の活動で、「あまり参加したことがない」方がいるが、参加できていない理由として、17ページをみると「どんな活動があるか分からない」とか、「関わるきっかけがない」みたいなことも書かれているので、そのあたりの仕掛けを色々と考えていくことによって、地域のつながりにつながっていくのではないかなと思う。</p>
委 員	<p>地域における様々なことについて、継承がされていないと思う。どの地域でもほぼ共通していると思うが、両親が長い間住んでおられた後に、同居して、そしてその地域で共に生きていくというような世代が非常に少なくなった。他の地域、おそらく習慣や行事等が違う場所に行って、それで新たに馴染んでいかねばならないという状況ではないかなと思う。だから昔と違って、継承が行われていない中で、いかにして新たな地域との関連性をつかんでいくかということが1つの大きな課題ではないかなと思う。</p>
会 長	<p>前回の比較調査として、10ページの近所の方との付き合いの程度について、事務局の報告では、前回5年前に比べると「ほとんど付き合いをしていない」が23%とかなり多くなっている。言わば、地域の社会的孤立の課題が非常に明確になった統計だと思って聞いていた。</p>

	<p>それと、もしかしたら取り方で違ったのかもしれないが、16ページの自治会・町内会活動やボランティア活動への参加状況について、平成21年には15%、前回調査は10.3%、5年前調査では8.6%と減少していたが、今回調査では14.8%に増えている。これは良いことだと思ったら、今回の選択肢で自治会が入っている。自治会を抜くとどのくらいかを見れたら良いと思うが、どうか。</p>
事務局	<p>自治会を除いた分は、ちょっと難しいかもしれない。</p>
会長	<p>もし集計できるのであれば聞いてもらいたい。自治会が入るとかなり広がってしまって、14.8%となっている。アンケート調査をする前にチェックしていれば良かったが、少し苦しいところだと思う。</p>
事務局	<p>前回の質問文では、「あなたはこれまで地域における支えあいといった社会貢献、地域貢献やボランティアなどの活動に参加したことはありますか」という聞き方だったが、今回、「社会貢献、地域貢献、ボランティア」のところで、ボランティアは分かると思うが、「社会貢献、地域貢献の活動に参加したことがありますか」と聞くのは分かりにくいのではないかと思ひ、より具体的に伝わるように、「自治会・町内会活動や社会貢献、地域貢献、ボランティア」とした。</p>
会長	<p>調査は、前回と比較してどうかという視点もすごく大事なので、文言がガラッと変わってしまうと、統計の意味が見えなくなってしまうのではないかと思う。</p>
委員	<p>15ページ、「参加したくない」という数字がすごく大きい。これが心配なところだと思う。行事、お手伝いなどの参加もだいぶ減っているので、近所づきあいに関しても、もう少し関心度を高めるためには、どうしたら良いかということが大きな課題だと感じる。</p>
委員	<p>43ページを見てすごく安心した。私は自治会にも関わっているし、民生委員でもある。また、老人クラブに入って仕事をしており、地域包括支援センターとは特に親しくしている。そういう視点でみると、認知度が高いところにいるんで、一番活発に動いていると感じた。</p> <p>ボランティアや自治会、地域の中で連帯をするような活動に参加したいと思っても参加できない人は絶対いる。年を取っている方や家の中にもっている方、関心の無い方など色々いる。どうしても参加は無理な方について、そういう人が疎外されないように、この地域はこういう活動をしているという情報、PRがすごく大事だと思う。地域の老人会の毎月機関紙も作っている。先月で毎月の機関紙が100号になったが、それによって地域の方が地域の行事やボランティア活動をしている方について理解していただいている。現在、老人会の加入者は約350名いるが、地域のことをみんなに関心を持ってもらえるよう、色々な人に情報が届くよう、そういうことを心がけていけば良いものにできるのではないかと思う。民生委員や老人会の立場で、地域が活発になるように動きたいと思う。</p>

委員	<p>地域の暮らしやすさの評価、7ページで、アンケートに答えた8割、大方の方が東大阪市を暮らしやすいと感じている。一方で、2割の方が暮らしやすいと感じていない。嫌な言い方をすると、何らかの不満を持っている可能性がある。暮らしやすいと感じていないと答えた方が、なぜ暮らしやすいと感じていないのかという理由を尋ねた項目とか、その方々がより暮らしやすい地域となるために要望しているようなことを集計したものはあるか。</p>
会長	<p>おそらく、資料がアンケートのすべてだと思う。あまり細かいアンケート項目を作ると回答率が落ちるということと、前回と比べるということで、前回調査と似た項目で実施している。</p>
事務局	<p>暮らしやすいと感じない人達が2割いる点について、暮らしやすいと感じない理由を聞く質問は設けていないが、報告書の9ページで、全員に「より暮らしやすい地域となるために必要だと思うこと」について聞いている。例えば、クロス集計を行い、暮らしやすいと感じない2割の人達が、暮らしやすい地域となるために必要と思うことのどこにチェックをつけているかで、読み替えることができると思う。そういったクロス集計は可能だと思う。</p>
会長	<p>8ページ、暮らしやすいと感じる理由として、利便性とかが多いが、残念ながら「福祉や医療サービスが充実している」とか「地域活動が活発」の項目は結構低い。このあたりが、地域福祉計画での課題として考えていけないといけない、取り組んでいけないところだと思う。</p>
委員	<p>私は地域でコミュニティスペースを運営している。最近コミュニティサロンとかコミュニティスペース、コミュニティナースという活動も広がってきているが、その表記がないところがすごく気になった。</p> <p>43ページの地域活動を推進する主体の認知度のところなどでも、地域のコミュニティサロン、地域コミュニティ、集いの場のようなものの表記が全くない。地域住民の生活動線上にフラッと立ち寄れる場所が、地域の方が課題を持ってきやすい場所となっていると思う。私の活動での体験談になるが、地域に常設で、中に常駐する人がいるところだと、“もしかしたら近所の子が虐待されているかもしれない”とか、“もしかしたらあの方は認知症かもしれない”というような、どこに声を届けて良いかわからないことも、住民の方が声を届けてくださっているように思う。近所づきあいが希薄になってきているが、空き家でも十分なので、フラッと来やすい開放的な場づくりを進めることで、挨拶ができたり地域住民の方が声をかけやすい雰囲気になると思う。そういう場の重要性を知っていただけるような活動をしていきたいと思うし、ここに載っている課題がほとんど解決すると思うので、どんどん声を上げていきたいと思う。</p>
会長	<p>こちらにはあくまで、今までの取組機関を提示している。アンケートだけで分かるものではないので、こういったところはどうかという提案を積</p>

	<p>極的に出していただくことで、よりブラッシュアップしていくと思う。</p> <p>また、今日は地域福祉計画の策定委員会であるが、第1回目の会議でもお伝えしたように、地域福祉活動計画という主に社協が中心として、地域の方々がどのような活動を作り上げていくかというところにも、委員の体験談は非常に親和性が高いと思う。こういう形でのスペースがあるとか、私も不勉強で最近コミュニティナースを知ったが、地域の中での医療とか福祉の視点を入れることはとても大事だと思う。ぜひ、こういうこともあるといった指摘も積極的に提案いただけたらと思う。</p>
委員	<p>感想になるかもしれないが、35ページの日々の生活において感じている悩みや不安の中の「孤独・孤立を感じる」ということが、若い世代、18～29歳で一番高くなっている。こういう世代を感じる孤独はどんなことなのか少し気になった。生きがいに関するところが、今は何かネガティブに読み取れてしまうところが気になった。また、子育てに関するものでは、やはり39～49歳の年齢層で比較的高くなっている。相談相手、特にフォーマルな相談機関について、どう受け皿になっているのか気になった。</p>
会長	<p>大切な指摘をいただいた。若者、14歳から39歳までの死亡原因のトップが自殺というのが日本の現状である。孤立・孤独とか生きがいを感じられない若者に対して、計画の中でどのような形でしっかりと書き込んでいけるかといった課題がある。いわゆるダブルケアやヤングケアラーの問題もあると思うので、今までの課題と同時に、これからの新しい課題についても色々と議論しながら計画の中に盛り込んでいくようにできたらと思う。</p>
委員	<p>41ページ、情報を得る際に活用している媒体について、市政だよりとかインターネット、市のウェブサイト等が1、2、3とランキングされているが、ボランティア活動や地域の活動については、まだまだ知られていないところがあると思う。東大阪市の市政だよりは、どうも写真が少ないと思う。客観的に捉えたボランティア活動も、しんどいことばかりではなくて、みんなでやってすごく清々しい気持ちになるとか、私も参加したことがあるが、何かそういった活動写真を市政だよりのトップページに載せてはどうかと思う。また、若者だとインターネットを活用している人が多いので、市のYouTube動画など、動画を見ることによって自分も気軽に参加してみようと思えるのではないかと思う。</p> <p>若者の自殺についても、社会的に孤立していて、何か自分でも役立てることがあるのではないかとか、そういったことを客観的に感じてもらえるような発信など、この調査結果をみると、まだ可能なことがあるように思うので、市政だよりのページ数を増やしたり、発刊頻度をもう少し増やしたり、写真を多く出したり、ネットではYouTube動画等に力を入れていただくことで、市民が何らかに参加して、地域で助け合っていくことにつながり、少しでも効果がでてくるのではないかと思う。</p>
会長	<p>5年前の時も、インターネットやSNSがかなり増えていて、今回もインターネットやウェブサイトがさらに増えている。若者にはそのあたりの</p>

	<p>媒体を活用しながら、ビジュアルで広報していくのもすごく大事だという指摘であった。福祉もそうだが、しんどいとか大変というイメージが先行してしまっているように思う。そのあたりをどうしていくかは、活動計画も含めて考えていかないといけないところだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>全体として、アンケート調査結果について、市民アンケート調査の有効回収率が31.4%で、事業者・団体等が70%となっていて、個人の回収率が低いことが気になる。中核市、48万人の市で、これぐらいのアンケートでは、なかなか正確な結果が出ないのではないかと思った。</p> <p>それと全体として、地域別にみると、3つの地域で特性が大きく異なっている。そのあたりところの相違も十分に見ていく必要があるのではないかと思う。西地域は非常に人口が密集をして大部分を占めているが、東地域はいわゆる密集地域ではなく、生活に関わるような施設とかがなかなか無い。生活感の違いも大きな差があるので、そのあたりももう少し見ていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>地域別のクロス集計をすると、地域特性がだいぶ見えてくると思う。西地域は、この5年間で人口が8割近く変わっていたような傾向があったと思う。一方で、東地域では、長く住んでいる人が多く、住民意識が高いように思う。またそのあたりについては相談させていただきたい。</p> <p>成年後見や権利擁護について、何かお気づきの点とか意見あればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>民生委員をしているので、成年後見制度について、成年後見人をお願いすることも時々ある。一人暮らし高齢者、特に生活保護をもらっている方で、身寄りがない場合、色々と大事なことを決めるのに、どうしても成年後見人が必要である。そういう時に、一応市長が申立人になっているので、案外成年後見人が決まりやすい。それ以外に、私も成年後見にすごく興味を持っていて、大阪府社協、東大阪でも市民後見人をしている。実は10年ほど前に市民後見人になるべく講習を受けて、一応市民後見人として家裁に登録はしていたが、一応70歳が受任の定年で、70歳までに市民後見人で受任されると、受任された方が亡くなるまで、ずっと見ていかないといけない。辞めようと思えば、それなりの理由をつけたら辞めることはできる。70歳までに受任がなければ、そこでお払い箱になる。私はお払い箱になったが、民生委員として市民後見人らしき対象者と関係していて、何人も対応できないので家裁からの受任はお断りしていた。権利擁護について、成年後見制度は本当に良い制度だと思う。社協もすごく力を入れている。ただ、個人的な意見になるが、成年後見に一番適した人は身内だと思う。正常な、きちんとした人格者がいれば、成年後見人は身内の方がなるのが一番良いと思う。ただ、財産については揉めるのが通例なので、結局、弁護士ということになる。グラフからも分かるように、弁護士や司法書士の件数が多くなっている。市民後見人へ回ってくる案件は、生活保護をもらっている方の案件が多い。もちろんボランティアで、手弁当で対応するので、そういう方ばかり回ってくるのではないかと思う。多くの財産を持っている方は、弁護士さん等に回るのだと思う。東大阪市にも市民後見人は</p>

	<p>だいでいて、府にもずいぶんおられる。今後ますます市民後見人制度が発達して、ますますそれを担ってくれる人が増えることを願っている。私は、市民後見人は究極のボランティアだと思う。本当に良い制度なので、皆さんの中でも興味のある方がいれば、講座を受けて、なっていただけたらと思う。</p>
事務局	<p>市民後見人の補足として、先ほど生活保護の方が多という意見をいただいたが、実際には生活保護以外の方でも市民後見人がついている方もいる。案件でみると、今リレー案件ということで、大阪府社協が3士会、司法書士会、弁護士会、社会福祉士会が持っている案件の中から、非常に安定している方、市民後見人でも対応できる方を推薦いただいて、その方を市民後見人をお願いしている。件数が少ないのは安定件数を選んでお願いしているということもある。法的な整備や支援が必要な方について引き続き専門職の方をお願いしていくという考え方は変わらないと思うが、可能な方をリレーでお送りしていることになっている。</p>
会長	<p>市民後見人の大切さは、午前中の会議でも出てきたところである。</p>
委員	<p>保護司会の活動をしているが、「社会を明るくする運動」の認知度がどうしてこんなに低いのか、非常に残念に思う。毎年のように「社会を明るくする運動」で保護司会では色々なキャンペーンをしたり活動をしている。また、中学生に「社会を明るくする運動」についての作文コンテストを毎年実施している。明日が最終選考になるが、大阪府下で東大阪市の参加数が2番目で、五千数百点の参加をしていただいている。これを通して、子ども自身はある程度、理解していただいていると思う。その子ども達が成長した時に、「社会を明るくする運動」や犯罪予防についての認識が上がっているのではないかと予想している。</p> <p>犯罪や非行をした人の立ち直りのために必要だと思うことの中で、1番目に就労支援となっている。これは東大阪市地区奉仕会の関連団体として、犯罪や非行に陥って施設に入所して、また出てきた人に対しての就労支援として、協力雇用主会という組織がある。これは、犯罪に陥った人を理解した上で就労することを認めてくれている団体であり、現在70数社ある。保護司会としては、現在の協力雇用主から、どういう求職情報があるかということ、具体的には、現在こういう仕事があるという情報を保護司に提供して、対象者にそれが伝わるように努力をしている。ほとんどの対象者は、個人的に仕事につながることに頼っているのが多いので、効果がどのくらい出ているかは分かっていない。ただ、我々としては就労支援ということの大切さを踏まえ、この努力を続けていく予定をしている。</p> <p>また、東大阪市においても再犯防止推進計画を策定していただいて、地域福祉計画の一環に今回なっている。その中で犯罪をした人や施設からの出所者に対する就労支援に対しても、計画の中でも協力いただくことになっている。社会の一員として我々と共に生きていく、そういう理解が一番再犯防止につながることで、そういう方々に対する理解を改めて我々もしたいと思う。</p>

<p>会 長</p>	<p>本当にそういった取組みが非常に重要だと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>犯罪をした人の立ち直りの支援ということで、就労支援や住まいの確保も必要だと期待されている。特に、非行とか少年院にいた子ども・若者の多くは、その背景として、これまでの育ちの中で経験してきた逆境的体験とか、虐待経験のある人が非常に多いということが明らかになっている。</p> <p>今後、就労支援や住まいの確保はもちろん非常に大事で、先ほどの意見にあったような協力企業があることも非常に大事なことだと思う。それと同時に、虐待を受けて愛着形成ができていないとか、他者との関係づくりが苦手だといった非常に難しい状況がある中で、そういう人達にどう就労支援をサポートしていくかが重要だと思う。受け入れ先だけでなく、逆境的体験をしてきた若者をどう支えるのか、具体的などころまで考える必要があるのではないかと思う。</p> <p>また、犯罪と直線的に結びつけるものではないが、累犯的に、犯罪をする人達の中には、軽度の知的障害であったり、その周縁に位置する境界閾値の方々、発達障害等も含まれてきているので、そういう理解も同時に必要になると思う。東大阪の瓢箪山にも、それを支援している団体がある。私も何度かお邪魔したりするが、少年院を出ても親族の受け入れ先がないということで、そこの団体が住宅を確保して、若者を支えている事例もある。先ほど申し上げたような背景を持つ人達も多いので、突然いなくなったり、すごくトラブルを頻繁に起こす人にも、団体の職員が関わって、そこから独り立ちしていったという例もある。就労先や住まいを、どうサポートするかということも非常に大事なことだと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>今回の重層的支援体制整備の中でも、参加支援という部分で今ご指摘いただいた点については考えていかないといけないと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>最初に事務局から、市民アンケート調査と同じものを事業所・法人・団体では実施していないという話を聞いたが、犯罪・非行からの立ち直りのための就労支援が一番大事なことで、社会で受け入れることが重要である。</p> <p>我々地域住民は、市民一人ひとりの個人の問題であるが、団体・法人・事業所としては就労支援が一番大事な部分で占めている。そうであれば、事業所等へのアンケート調査をどうして実施しなかったのかという疑問がある。</p> <p>就労支援や立ち直りと言っても、我々地域住民だけではなかなか上手くいかない。やはり団体・事業所等が仕事を世話して、地域へ組み入れてあげることが一番大事だと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>次回への要望という形で聞かせていただけたらと思う。</p> <p>続いて、防災の部分について質問や意見あれば、お聞かせいただきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>名簿のことを知っている割合が1割程度となっている。だいぶ市も毎年取り組んでいるし、地域の自治会とか民生委員も、避難が困難な方々をどうしていくか、日々色々と考えていただいている中で、市民全体としては1割程度の認知度というのは、もっと広めていかないといけないと感じた。</p>

		<p>避難行動要支援者名簿も、既に登録している方の情報公開について、個人情報問題で、これまで取り扱いが色々難しい問題があった。今後は登録者の方々に、地域に公開して良いかどうかの同意を取ることになるので、そういう方がより地域で増えて、これからは地域と一緒に防災訓練とか、顔の見える形で地域にて取り組んでいくことが進むと期待している。名簿の制度自体について、もう少し知名度を上げていけるようにしていただけたらと思う。</p> <p>また、23ページ、頼りにできる人の部分について、市民全体のうち障害当事者とか避難が困難な方々がどれぐらいの割合で含まれていたかという点はあるが、ホームヘルパーとか福祉サービス事業者の方を頼っている方が3.4%で、全体の中では非常に少ない。事業所のアンケートをみると、7～8割近い方が、いざ災害が起こった時には利用者の安否確認とか、心配してくれてるという結果であった。実際そういう層の人達と関わっている事業者の方々と共に、安全を考えられているのかなと感じた。</p>
会	長	<p>高齢者や障害者の方では、特に災害時には非常に弱い立場に陥る可能性があるというところで、そのあたりについても、計画の中ではしっかりと書き込んでいく必要があるという意見だったと思う。</p>
委	員	<p>自分の地域は山の麓にあるので、特殊な訓練で、犬を連れている人、盲目の人、坂道なので車椅子に乗っている側じゃなくて押せる人達の特殊な訓練だった。いかに近所の体制が速やかになるかということが大事で、私達が集まっても、どの人をどうしたら避難所に行けるかというのを痛切に感じたので、普段からの近所付き合いが本当に大事だと思った。自分の地域でも大きな課題だと思うので、また考えていきたいと思うが、みなさんの良い知恵があればぜひ聞かせてほしい。</p>
会	長	<p>知恵を生かしあっていくことが必要だと思う。今回は地域福祉計画であるが、地域福祉活動計画で住民懇談会があって、東地域・中地域・西地域で、地域の方々から直接的に意見も聞かせていただきながら、計画に反映していく形になると思う。</p>
委	員	<p>私自身が訪問介護でご自宅に訪問するが、専門職である訪問介護と地域サービスに関しては、地域の子育て中のお母さん達とマッチングサービスみたいな形で伺っている。その中で実際の声を拾ってきた点で共有しておいた方が良いことがある。避難行動要支援者名簿の作成について、郵送では送られてくるが、当事者の方で目が見えないとか、郵送物を開いていないことがあるので、郵送した後に追いかけていくこと、届きましたかという連絡とか、実際に訪問して書類作成を一緒にお手伝いすることが必要ではないかと思う。地域住民をもう少し巻き込んで、作成していった方が良いのではないかなと感じている。</p>
会	長	<p>情報が本当に行き届いているかどうかの確認が必要という意見だった。</p>
委	員	<p>今までの意見と重複するところもあるかもしれないが、私は子育てと家</p>

	<p>族の介護が重なるダブルケアという事象の周知啓発活動を行っていて、防災に関して度々支援者仲間内で話題に上がることがある。やはり何かあった時、避難しないといけない時に、防災リュックを抱えて、小さな子どもを抱っこして、介護が必要な高齢の家族の手を引いて、例えば酸素吸入とかして大きなポンベを持っていたりすると、どうすれば良いのかという話になった。防災に関しては、ダブルケア家庭は普段から考えておかないといけないという話になるが、ケアを担っている方は、自分が何とかしないといけないという意識が強くて、ギリギリまで、限界まで、周りの人に頼まないところがある。何かあった時に、近所の人や友人・知人、特に近いのは町内会や自治会の方だと思うが、もっと頼って良いという認識を持っていただくには、どうしたら良いか考えている。</p>
<p>会 長</p>	<p>12～13 ページで、困った人がいたらどうするかというのに「特にない」とか、「お手伝いしてもらいたいことが特にない」というのが突出して多いのは、地域のつながりが本当に弱くなってきているということがすごく明確に現れていると思う。今後の計画の中で、こういったところについて、みなさんの知恵を貸していただく必要があると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>私は東大阪の瓢箪山の方であるが、うちの自治会では個別援助、緊急時の個別に指定した人々をこういう形で救い出すとか、そういう地域計画の段階で、その説明会を何回か受けさせてもらった。結局、障害のある方や病気をお持ちの方をリストアップして、その人の担当者を決めて、何かあった時には、その担当者の方が積極的にそこへ援助に向かうというシステムを市では考えているようであった。ただ、具体的に地震があった時に、あの人のところは誰が担当するのかという話になると、その責任の重大さでなかなか上手くいっていなかった。今の状況について、どの程度進んでいるのか教えてもらいたい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>現在、件数としては9件となっている。東地域をモデル地域として、令和3年度から個別避難計画を進めており、今年度も同様に東地域をモデル地区として進めている状況である。対象の方については、福祉的なサービスを受けている方がほとんどになるので、今年度も福祉専門職の方に、担当している方の中で特に計画が必要な方を推薦していただいて進めていくように取りかかっている。また改めて、報告を含めて、計画策定には地域の方に協力をいただく形で進めていくので、ご協力をお願いしたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>今回、資料が配られてから時間もあまり無かったと思うので、会議が終わってからもう1度改めて見ていただいて、気づいたことを事務局に出してもらえればと思う。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>来週の8月30日水曜日までに、地域福祉課にメールかファックスなどでご意見をお送りいただきたい。</p>
<p>審議事項（2）地域福祉計画、地域福祉活動計画策定のための地域懇談会</p>	

	について
事務局	資料説明
会長	懇談会は、委員の方で希望されたら、行かせていただいても良いのか。
事務局	それは相談いただきたい。
会長	<p>ぜひ関わっていききたいということであれば、また事務局に相談いただけたらと思う。</p> <p>アンケートも含めて、ぜひ色々な提案をいただけたら、そのことについても骨子案に入れていけたら良いと思うので、地域福祉計画でできること、また地域福祉活動計画で住民の方と一緒に考えていくこと、この両面で地域福祉をより豊かにしていきたいと思う。</p> <p>・次回、10月24日（火）東大阪市社会福祉協議会の会議室にて開催予定 ・第4回は、11月30日（木）に変更の旨連絡</p>